

記者発表資料

関東地方整備局管内で初めて小型ボックス活用埋設方式等 を活用した電線共同溝工事を発注！

大宮国道事務所では、無電柱化の整備の低コスト化を図るため、昨年度より小型ボックス活用埋設方式や既設側溝を活用した新たな整備手法について、電線管理者と勉強会を開催して、その構造等を検討してきました。

今回、関東地方整備局管内で初めて小型ボックス活用埋設方式や既設側溝を活用した試行工事を発注することとしましたので、お知らせ致します。

<試行工事の目的>

小型ボックス活用埋設方式は、従来の管路埋設方式に比べ低コストで整備できる可能性があります。今回、試行的に整備することにより、当該方式の整備による課題やコスト縮減割合など、実際に整備することにより確認するものです。

工事名 : R1国道17号深谷(4)電線共同溝工事
工事場所 : 国道17号 埼玉県深谷市原郷地先
施工延長 : 約480m (うち、小型ボックス延長 約180m
既設側溝活用延長 約40m)
公告日 : 令和2年1月24日(金)
入札日 : 令和2年2月28日(金)

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、埼玉県政記者クラブ、さいたま市政記者クラブ

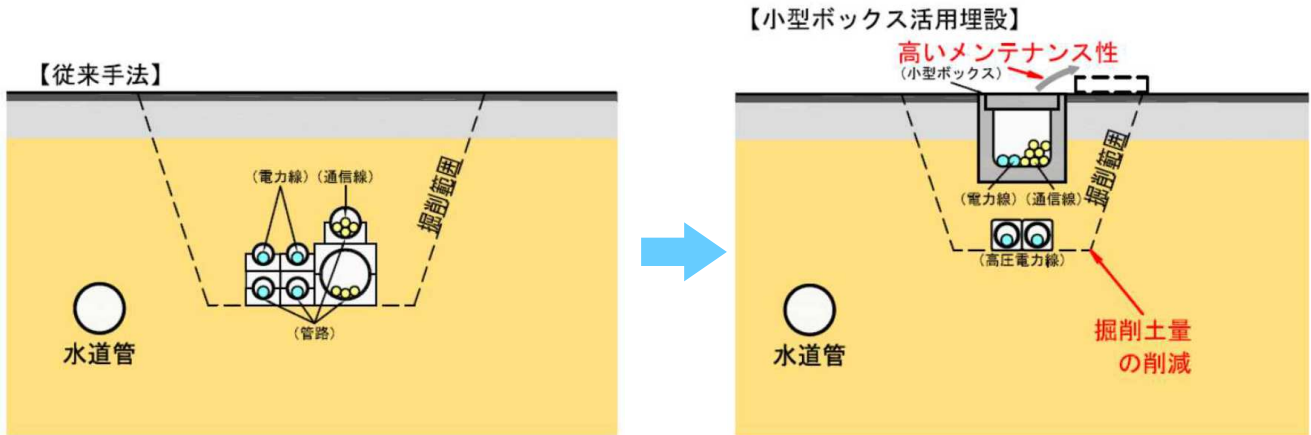
問合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 大宮国道事務所
副所長(技) 後閑 浩幸(ごかん ひろゆき) 電話 048-669-1200(代)
工務課長 小林 隆明(こばやし たかあき)

小型ボックス活用埋設方式イメージ（管路部）

小型ボックス活用埋設方式は、管路の代わりに小型ボックスを活用し、同一のボックス内に低圧電力線と通信線を同時収容することで、電線共同溝本体の構造をコンパクト化する方式です。

小型ボックスは路面に露出して整備するため、掘削土量が削減されるほか、整備後は蓋を取り外すことによりケーブルの敷設や保全が可能となり、メンテナンスがしやすくなります。



既設側溝の活用について

車の乗り入れ部で民地への引き込みのない区間は小型ボックスとする必要がないため、不要となった既設管渠を有効活用し、コストを縮減します。

工事概要

<位置図>



- 工事概算数量：電線共同溝工 1式
- 管路部 約300m
- 小型ボックス部 約180m
- 特殊部 11基
- 舗装工 1式
- 歩道舗装 約570m²
- 車道舗装 約280m²
- 道路改良工 1式
- 排水構造物工 約250m
- 集水柵 17個

- 工期：契約締結の翌日から令和3年3月31日まで

※今回発注する工事は、小型ボックス等の本体工事を行うものであり、その後、電力線・通信線の入線作業や電線・電柱の撤去を行う予定です。

【スケジュール】

- ・入札公告：令和2年1月24日（金）
- ・入札日：令和2年2月28日（金）